第１８回　ちゅうでん教育振興助成（平成３０年度）

報告書資料　一般 － ５８

学校名・団体名	岡崎市立生平小学校
コ　ー　ス	学校支援
活動・研究のテーマ	ふるさとに愛着をもち、自然と共生する子供の育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1　研究に至るまでの経緯

本校のある生平町は、三河富士や男川などの豊かな自然に囲まれた地域である。裏山には四季を通じて多くの鳥が飛来し、見るものの目を楽しませてくれる。また、生平八幡宮に伝わる地づき唄を歌って豊作を祈願する秋季祭礼などのような古くからの伝統行事も多く残っている。その土地柄を生かし、昭和５３年度に「ふるさと学習」を教育課程に位置付けて、実践を重ねてきた。また、昭和５７年度からは愛鳥活動にも取り組み始め、全国野生生物保護実績発表大会林野庁長官賞（平成３年）を始め、数多くの表彰を受けてきた。しかし、活動のマンネリ化や子供たちを取り巻く環境の変化などから、以前より子供たちの野生生物保護に対するモチベーションや、探鳥活動に対する意欲の低下を感じることが多くなってきた。そこで、今回、岡崎市猟友会や岡崎市役所環境保全課、さらに椙山女学園大学の宇土泰弘教授ともタイアップをすることで、これまでのふるさと学習を、さらにレベルアップさせ「自然との共生」を目指した実践に取り組むこととした。

2　活動時期及び活動内容

５月　野鳥の見分け方についての現職研修（講師を招聘しての学習会）
愛鳥委員児童による野鳥ギャラリーのリニューアル
２年生・５年生による田植え体験
愛鳥委員児童による野鳥検定、ウォッチングカードの改定と紹介
６年生による特定外来生物（主としてヌートリア）の調査活動や捕獲のための準備
昨年度までの活動を基にした、各学年の本年度の活動計画作成
縦割り探鳥会
野鳥検定
４年生児童による、校内のツバメの巣の観察及びカラス対策（カラス人形、かかしの設置）
第３７回「野鳥を知ろう集会」において年間活動計画の発表（講師を招聘しての講演）

６月　親子探鳥会
愛鳥委員による鳴き声クイズの実施
６年生による男川の水質調査
５年生による裏山土壌調査（ハンドソーディング法等による指標生物の採集）
高学年児童を中心としたツバメの営巣調査および、巣立ち数の調査依頼

７月　縦割り探鳥会
野鳥検定

８月　「愛知県野生生物保護実績発表大会」参加（刈谷市産業振興センター）
→14 年連続となる県知事賞を受賞。
里山遊びの会（市環境課・地域環境保護団体との連携）

９月　縦割り探鳥会
野鳥検定
２・５年生による稲刈り体験

１０月　本校の研究に関わる環境学習についての現職研修（講師を招聘しての学習会）
１１月　縦割り親子探鳥会
野鳥検定
２年生による学区にあるお店の訪問、見学
２年生による学区の公共機関（駐在所や郵便局）の訪問、見学
愛鳥委員会によるオシドリのためのドングリ集めコンクールの実施と学校周辺の池への給餌
「全国野生生物保護実績発表大会」参加（東京都　環境省）
→文部科学大臣賞受賞
人工池（ふるさと池）の改修開始
６年生児童による「おいだいらデジタル愛鳥図鑑」の作成開始
１２月　縦割り探鳥会
「コカ・コーラ環境フォーラム 2018」参加（北海道　コカ・コーラ環境ハウス）
→活動表彰部門　優秀賞受賞
１月　縦割り探鳥会
野鳥検定
４・５年生先進校視察（豊田市立滝脇小学校）
１年生による学区在住老人クラブ会員を講師としてお招きしての昔遊び体験
「新・生平ふるさとカルタ取り大会」
４年生によるカラ類の巣箱製作と架設・営巣調査
４年生による冬季給餌活動
２月　「ふるさと学習まとめ発表会」での成果の発表（講師を招聘しての講演）
「学校自慢エコ大賞」参加（東京都　フジテレビ）
→エコ活動部門　優秀賞受賞
３月　縦割り探鳥会
野鳥検定
随時　全校児童を対象とした裏山遊歩道を中心とした探鳥活動
愛鳥委員児童による野鳥検定のための対策プリント作成
３年生児童によるセキレイ（ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ）の分布調査

３　活動の成果

（１）愛鳥委員の活躍と全体の雰囲気の変化

児童数減少の影響から３年前になくした愛鳥委員会を復活させ、愛鳥活動のリーダーとしての役割を担ってもらうこととした。その期待に応え、野鳥検定の改定や野鳥ギャラリーのリニューアル、野鳥の観察記録（ウォッチングカード）の改定、さらには野鳥検定の合格率向上をねらった対策プリントの作成など、これまで停滞気味であった活動を、見事に活気あるものへと変えることができた。また、愛鳥委員が参加をした各種発表会で、高評価を得ることができたことで、本校の取組は、外部の方からも認められるものへと変化してきた。

（２）児童の主体的な取組

本年度、岡崎市の小学校にはタブレット端末が支給された。この端末を愛鳥活動に有効活用することはできないかと考えた６年生児童は、１１月から生平小オリジナルのデジタル野鳥図鑑を作成し、すべてのタブレットで活用ができるようにした。ＮＰＯ団体と連携し、鳴き声の音声データを活用できるようにしたことで、この図鑑はさらに使いやすく、役に立つものとして活用されている。

１月中旬には、４・５年生が先進校（豊田市立滝脇小学校）への視察を実施した。その後、滝脇小学校の給餌活動の優れた点を取り入れ、４年生児童が中心となって、給餌活動を積極的に展開している。それに留まらず、給餌したことによって、せっかく多くの野鳥が飛来するようになったのに、その様子を１階教室からは見ることができないため、３年生までの児童に声掛けをし、２階の廊下に招待して野鳥を観察できるようにした。さらに、観察がスムーズに行えるようにと、フィールドスコープの照準を合わせたり、飛来した野鳥について紹介をしたりするなど、以前は見られなかった工夫をしながら、観察活動を盛り上げている。また、５年生児童は、本格的な裏山の環境改善のための取組として、専門家のお手伝いを求めることを決めた。

（３）学校裏山にあるふるさと池（人口池）を中心とした環境改善についての取組

５月に、裏山にあるふるさと池に飛来したカワセミをもっと身近な存在に感じるためにという思いで、今年はふるさと池の改修工事に着手し、常に水鳥が飛来する池作りを目標に掲げて取り組んできた。ちゅうでん教育財団の助成金は、これにかかる費用に充てられている。池の老朽化による漏水で、水鳥が飛来しなくなった池が自分たちの手で生まれ変わるという実感からか、これからも愛鳥活動を継続していこうという思いが児童の中に芽生えてきた。この人工池は本校の取組のシンボルとして、これからの活動をさせてくれることだろう。こうした身近な環境から範囲を少しずつ広げていきながら、最終的には「ふるさと生平」の抱える環境の課題を見付け、その課題を解決するために行動する児童の育成を目指して、これからの実践に取り組んでいきたい。